

なでじこ

SAISEIKAI OMTA HOSPITAL SEASONAL REPORT

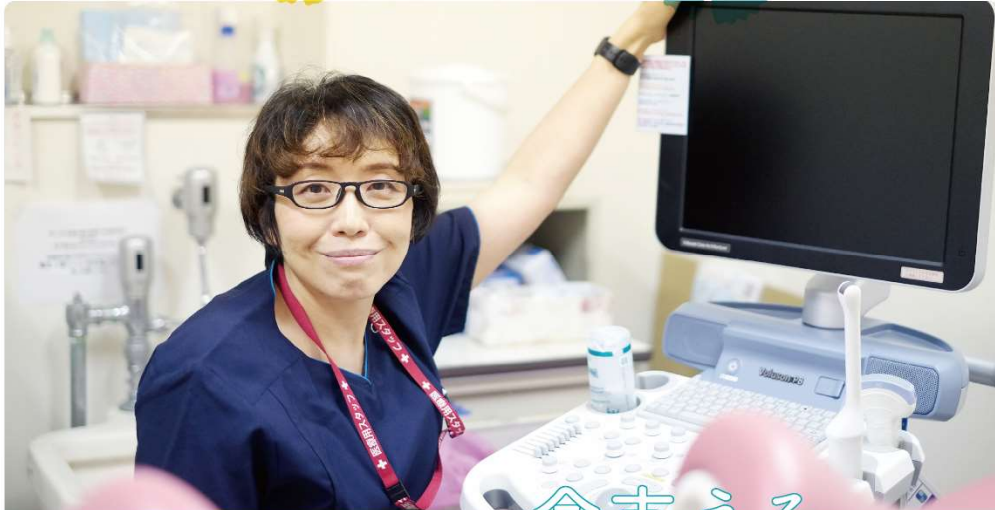
Vol. 3

2024.10

SPECIAL ISSUE

教えて! Doctor 特集

婦人科 内分科原研センター センター長
上杉 佳子 医師 岩屋 智加予 医師



命支える 二人の女性医師。

Two doctors save our lives.



第1回
医療と福祉の輪を広げよう
済生会フェア
IN 大牟田

11.2[±]
10:00~15:30 (開場 9:30)

入場 無料 小雨 決行

開催 場所 済生会大牟田医療福祉センター
(済生会大牟田病院・ライフケア棟)

<https://omuta-saiseikai.jp>



副院長としてクリニックを進化させている石崎善太医師(左)と、理学療法士 石崎仁弥氏(右)、院長である石、石崎孝嗣医師とともに兄弟で地域医療に向かっています。

済

生会大牟田病院から南開インターチェンジ方面へ車で約10分、通り沿いに開放的なガラス張りのクリニックがあります。「いしぎ内科・心臓血管クリニック」です。昭和25年に石崎医院として開設され、住民にとってなくてはならない診療所として長らく地域医療に携わってきました。

「地域のみなさんが何に困っておられるかアンケート調査を実施したんです。その結果、高齢の方向けのデイケア施設や医療専門のリハビリ(心臓血管病など)を近くで受けたいというご意見を多くいただきました。」そう話してくれたのは2年前に副院長として赴任した石崎善太医師。早速アンケート結果を元に事業内容の拡張とクリニックの増設が検討され、今年2月に着工、運動施設などを加えて7月に完成しました。「一般診療はもちろんですが、みなさんの元気、健康増進、心臓血管病の発症、再発予防に少しでも貢献したい思いで始めました。」

「まだ1、2ヶ月ですが、みなさん笑顔で元気に運動されている姿を見て、始めてみて本当に良かったとすぐ思いました。」理学療法士である弟の石崎仁弥氏も加わり、8月から外来通院型の心臓リハビリテーション、9月から「デイケア アイプラス」をスタートしました。

「祖父の時代から心臓血管病、生活習慣病だけでなく、一般内科、外科問わず地域のみなさんが困っている病気に幅広く対応できるようにという思いで日々診療しています。連携いただいている総合病院はとても大切であり、当院から一番近い済生会大牟田病院は相談もやすく、日頃から大変お世話になっています。」

人と人がつながって、地域に最適な医療体制を——「息切れどか体力が落ちてきたか日常の違和感程度で良いんです。気軽にご相談いただけたら、ご本人に限らずご家族でも大丈夫!」石崎医師の眼差しは明るい温もりに満ちています。

世代を超えて74年。
兄弟が切り開く地域医療の今。

いしぎ内科・心臓血管クリニック 大牟田市四ヶ

(ホームページ)



TOPICS



リハビリテーション部

理学療法士
田中 向日葵
Mitsuki Tomonaka

今年度、4月より当院に入職し、理学療法士として主に外来・通所リハビリテーションを担当しております。入職当初は不慣れなことが多く、上手いことができませんでした。しかし、現在では先輩方のサポートの中、患者様とのコミュニケーションを大切にすることを心がけ、患者様とリハビリすることができています。その中で、自分自身の知識・技術の乏しさを痛感したため、私も先輩方のように様々な知識・技術を持ち、患者様1人1人に合わせたリハビリを選択していただける理学療法士になりたいと思いました。理学療法士として、1人でも多くの患者様に笑顔になっていただけるリハビリを提供できるように、日々自己研鑽を惜しまず、勉強に励んでいきたいと思っています。

入職5ヶ月が経ちました。振り返ると時間があっという間に過ぎていくように感じましたが、同時に先輩方のご指導のもと、多くの事を学ぶことができました。特に、検査データは精度が命であり、細かい気配り、チーム連携の大切さを感じました。まだまだ学ぶべき事は多く、今後も先輩方のアドバイスお手本を参考にしつつ、自ら学ぶ姿勢を忘れず一人前の臨床検査技師になれるよう、引き続き努力していきます。

新入職員のご紹介!
Newcomer



検査部

検査技師
岩屋 大洋
Taiya Iwaya

大

牟田患愛団にて、10/19(土)に「第38回患愛まつり」が開催されました。済生会大牟田病院は「青空健康チェック」を実施、ご来場いただいた大勢のお客様にご参加いただき、骨密度や血管年齢などの測定のほか、AED講習、防災グッズ紹介、お薬や栄養、介護などについてご相談を伺いました。



当日は、ステージイベントや抽選会、北海道「まいもんフェア」バザーなどが実施されました。キッチンカーも登場し、多くのお客様で賑わいました。

Profile | うすぎ・よしこ
1999年久留米大学卒、産科婦人科学講座入局、日本産科婦人科学会専門医、
日本女性医学学会認定医、日本産婦人科乳腺腫学会認定医。



福岡県済生会大牟田病院
婦人科

上杉 佳子 医師

Dr. Yoshiko Usugi

「女性のための診療科
「婦人科」
そこで大切にしては
上杉医師の役目は」

明るい笑顔で診察室がほっとした空気に包まれます。上杉医師は婦人科の医師。柔らかな視線の奥に確固たる自信と職責への誇りが溢れています。「このコンパクトなところが良いですよ。」と上杉医師は言います。済生会大牟田病院の婦人科は比較的小さな部署。それが結果的に院内の他科との関わりを密接に構築できることにつながり、連携も取りやすくなることにつながります。上杉医師いわく「フツ軽」で患者への対処がしやすいのだそう。

上杉医師が医療の道を歩むことを決めたのは高校一年の頃。先天的に脚に障がいがあり、定期検診のために訪れていた大学病院の女性医師との出会いがきっかけでした。先生の患者に対する姿勢、その格好良さに憧れ、進路として考えていた学校教諭を改め、医師を目指すようになったそうです。なかでも女性であることを活かせる産婦人科の道へ。

産婦人科では大きく分けて、不妊・周産期に関わる診療を行います。女性をトータルで見ることができるところに魅力を感じながら、日々患者と向き合っています。

「糖尿病は長く付き合わないといけない病気です。だからこそ、スタッフと患者の絆を超えて人と人とのつながりが大切。スタッフと患者さん双方が家族であるかのような気持ちで接し合えるような関係性が必要です。」でも何より「予防に優る治療はありません。常日頃から市民の皆さんとともに考えていくことが大事です。」そう話す岩屋医師。

世界糖尿病デーに合わせて、2020年に岩屋医師が中心となって始めた正面玄関のブルーライトアップ。今年は11月1日から11日まで「大牟田市世界糖尿病予防デー2024ブルーライトアップ」と称して市役所本庁舎でも青く輝きます。糖尿病治療に大きな変化と進化をもたらしたインスリンの発見から約100年。地域の未来を見据えた取り組みが今も進んでいます。

インスリンが発見されて約100年。現代社会でより問題化する糖尿病に立ち向かう医師のさらめき

「糖尿病は長く付き合わないといけない病気です。だからこそ、スタッフと患者の絆を超えて人と人とのつながりが大切。スタッフと患者さん双方が家族であるかのような気持ちで接し合えるような関係性が必要です。」でも何より「予防に優る治療はありません。常日頃から市民の皆さんとともに考えていくことが大事です。」そう話す岩屋医師。



地元出身の専門医

青く輝く希望

「糖尿病は長く付き合わないといけない病気です。だからこそ、スタッフと患者の絆を超えて人と人とのつながりが大切。スタッフと患者さん双方が家族であるかのような気持ちで接し合えるような関係性が必要です。」でも何より「予防に優る治療はありません。常日頃から市民の皆さんとともに考えていくことが大事です。」そう話す岩屋医師。

世界糖尿病デーに合わせて、2020年に岩屋医師が中心となって始めた正面玄関のブルーライトアップ。今年は11月1日から11日まで「大牟田市世界糖尿病予防デー2024ブルーライトアップ」と称して市役所本庁舎でも青く輝きます。糖尿病治療に大きな変化と進化をもたらしたインスリンの発見から約100年。地域の未来を見据えた取り組みが今も進んでいます。

福岡県済生会大牟田病院
内分泌糖尿病センター
センター長

岩屋 智加予 医師

Dr. Chikayo Iwaya



EVENT
11/14の
世界糖尿病デーに合わせて
1日から11日間、
大牟田市役所本庁舎が
ブルーにライトアップされます。
関連イベントも開催!

糖尿病についての展示
日時:11/1~11/11
場所:大牟田市役所本庁舎 正面玄関ロビー

講演会・医療相談・各種測定
日時:11/10 10:00~14:30
場所:ゆめタウン大牟田2Fわくわく広場



糖尿病予防のシンボルマーク「ブルーサークル」にちなんで、待合室のソファはブルーに決めた。